

私たちの暮らしと町の未来のあり方を考える

1. 新型コロナウイルスと私たちの生活

長期化する新型コロナウイルス感染症への対策において、私たちは新たな生活様式の導入や働き方の見直し、生活や行動の制限が求められています。影響が長期化するなかで、私たちはこれまでの考え方や行動を抜本的に改め、新たな環境にしなやかに適応していかなければなりません。

また、過疎地域であった農山村は、三密そのものである都市と比較し、新型コロナウイルスに対して高い耐性を示してきました。私たちが雪国の厳しい環境を生き抜くために、農村社会の歴史上、人々が支え合い生活してきたように、自然と調和したライフスタイル、家族や友人との時間や余暇を楽しむ、人間らしい暮らしの創造が求められています。



2. 町民の皆さんへの幅広い意見集約のお願い

新型コロナウイルス感染症の終息が見通せない中、仕事や学校、地域の活動など、私たちの暮らしを取り戻しながら、コロナウイルスと共存する「ウィズコロナ」時代を生きていかなければなりません。そのためには、町民が総意として知恵を結集し、この困難を克服していく必要があります。

町では、ウィズコロナ時代の町のあるべき姿を議論するため、様々な分野から選出した委員の皆さんからなる町民会議を開催しました。この機会に合わせて、町民の皆さんから幅広くご意見を頂戴し、多様な声を町政に反映させていきたいと考えています。大切な人と今後もこの町で暮らしていくために何が必要か、何を大事にしたいか、是非ご意見をお寄せくださいますようお願いいたします。



3. 生活支援給付金の給付について

新型コロナウイルス感染症を予防しながら、経済活動をこれまでの水準まで順次回復させていくため、町として生産者や事業者を支援し、町民の生活を支えるための施策を継続して推進していきます。

この度、生活支援給付金として、一人当たり 10,000 円の給付事業を実施します。本給付金は、一旦感染が収まっても、第二波、第三波という新たな感染の波が懸念される中、町民の皆さんの生活の支援を目的として実施するものです。

町の新たな未来のために、地域を支えるために、一人ひとりが有効に活用していただきたいと考えています。私たちの消費行動を変えることで、地域の商店や生産者を支援することができます。ウィズコロナの時代では、差別や分断ではなく、他者を思いやる寛容さと連帯が求められています。

